

流通科学大学 人材育成に関するアンケート調査  
2023 年度調査報告書

2024 年 9 月 流通科学大学

## 目次

I. 調査の概要	P.2
II. 調査結果の概要	P.3
1 本学ディプロマポリシーに示された汎用的能力の企業における必要性	P.3
2 本学出身者の汎用的能力の習熟度に関する企業の評価	P.4
3 出身の学部学科にかかわらず求められる知識や能力の企業における必要性	P.5
4 出身の学部学科にかかわらず求められる知識や能力の、本学出身者の習得度に関する企業の評価	P.6

## I. 調査の概要

### ・調査の目的

企業の採用担当者が、本学の全学共通のディプロマポリシーに示された汎用的な資質・能力、その他の資質・能力についてどのような認識を有しているかを調査することにより、本学における教育の成果・効果を検証するとともに、本学における教育の一層の改善・向上を図るための資料とすることを目的とする。

### ・調査対象

本学卒業生の採用実績のある企業を中心とする、本学キャリア支援課と接点のある企業の採用担当者

### ・調査方法

- ①回答フォームの URL ・ QR コードを記載した依頼書を、本学を来訪した企業に対して手渡しして依頼
- ②本学卒業生の採用実績のある企業に対して郵送して回答を個別に要請
- ③2023年12月開催のビジネスセミナー参加企業に依頼

### ・調査期間

2023年6月上旬～2024年3月末まで

### ・調査項目

次のような資質・能力について、①企業において一般にどの程度必要とされているか、②本学の出身者は一般的にそれらの知識や能力を学生時代にどの程度身につけているとの印象をもっているか（本学卒業生の採用実績のある企業に対してのみ）を問う。

◇本学ディプロマポリシーに示された資質・能力のうち「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけお  
くべき資質・能力」

◇その他、出身の学部・学科にかかわらず求められる知識や能力

### ・回収状況

回答企業数 46 件

## II 調査結果の概要

### 1. 本学ディプロマポリシーに示された汎用的能力の企業における必要性

問1 本学は、本学の学生を次のような資質や能力を備えた人材に育成することを目指しています。これらの資質や能力を身につけておくことは、御社において、どの程度必要とされていると思われますか。

本学ディプロマポリシーに示された資質・能力のうち「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」の各項目について、企業において一般にどの程度必要とされているかを調査したものである。その集計結果は表1のとおりである。

表1 本学ディプロマポリシーに示された汎用的能力の企業における必要性

	とても必要とされている	ある程度必要とされている	あまり必要とされていない	まったく必要とされていない	有効回答数
	(A)	(B)	(C)	(D)	
「ネアカのびのびへこたれず」の精神をもった人材					
夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる。	91.3%	8.7%	0.0%	0.0%	46
知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材					
1. 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)	67.4%	32.6%	0.0%	0.0%	46
2. 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)	58.7%	41.3%	0.0%	0.0%	46
3. 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)	63.0%	37.0%	0.0%	0.0%	46
4. さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)	58.7%	41.3%	0.0%	0.0%	46
創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材					
新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる	58.7%	39.1%	2.2%	0.0%	46
自主・自立の精神を持った人材					
1. 物事に自ら進んで取り組むことができる	91.3%	8.7%	0.0%	0.0%	46
2. 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる	56.5%	41.3%	2.2%	0.0%	46
3. 自ら課題を設定し、それを解決に結びつけることができる	71.7%	28.3%	0.0%	0.0%	46
仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材					
1. 他者に働きかけ、協力を取りつけることができる	76.1%	23.9%	0.0%	0.0%	46
2. 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる	82.2%	17.8%	0.0%	0.0%	45
3. 自分と周囲の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる	69.6%	30.4%	0.0%	0.0%	46
4. 他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができる	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%	46

(\* ) 46件の回答のうち、「無回答」を除いたものを有効回答とした。(以下、各表において同様)

いずれの項目についても、「あまり必要とされていない」「まったく必要とされていない」といった否定的な回答はほぼなかった。各項目のうち、90%を超える企業が「とても必要とされている」としたのが、「夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる。」という資質・能力と、「物事に自ら進んで取り組むことができる」という

資質・能力である。また、80%を超える企業が「とても必要とされている」としたのが、「他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる」、「他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができる」といった資質・能力である。一方、「とても必要とされている」との回答が50%台にとどまったのが、「収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)」、「さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)」、「新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる」、「自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる」といった項目である。

## 2. 本学出身者の汎用的能力の習得度に関する企業の評価

問2 採用や人材育成に関わっておられる中で、本学の出身者は全般的に、問1に掲げたような資質や能力を学生時代にどの程度身につけているとの印象をお持ちですか。

本学ディプロマポリシーに示された資質・能力のうち、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」の各項目について、本学の出身者はどの程度身につけているかについて、企業の採用担当者はどのように評価しているのかを調査したものである。その集計結果は表2のとおりである。

表2 本学出身者の汎用的能力の習得度に関する企業の評価

	十分に身につけている	ある程度身につけている	あまり身につけてない	まったく身につけていない	有効回答数
	(A)	(B)	(C)	(D)	
「ネアカのびのびへこたれず」の精神をもった人材					
夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる。	27.9%	58.1%	14.0%	0.0%	43
知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材					
1. 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)	11.6%	76.7%	11.6%	0.0%	43
2. 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)	14.0%	76.7%	9.3%	0.0%	43
3. 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)	9.3%	76.7%	14.0%	0.0%	43
4. さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)	11.9%	71.4%	16.7%	0.0%	42
創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材					
新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる	9.3%	72.1%	18.6%	0.0%	43
自主・自立の精神を持った人材					
1. 物事に自ら進んで取り組むことができる	32.6%	60.5%	7.0%	0.0%	43
2. 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる	16.3%	74.4%	9.3%	0.0%	43
3. 自ら課題を設定し、それを解決に結びつけることができる	11.6%	69.8%	18.6%	0.0%	43
仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材					
1. 他者に働きかけ、協力を取りつけることができる	31.0%	61.9%	7.1%	0.0%	42
2. 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる	23.3%	69.8%	7.0%	0.0%	43
3. 自分と周囲の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる	20.9%	74.4%	4.7%	0.0%	43
4. 他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができる	25.6%	67.4%	7.0%	0.0%	43

90%を超える企業が「とても必要とされている」とした資質・能力のうち、「夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる。」という点については、14%の企業が「あまり身につけていない」と評価している。これに対し、「物事に自ら進んで取り組むことができる」という点については、「十分に身につけている」という評価が30%を超え、「ある程度身につけている」という評価を加えると90%を超えている。その他、「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材」という人材像に応じた3項目はいずれも「十分に身につけている」に「ある程度身につけている」を加えた評価が90%を超えている。これに対し、「新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる」あるいは「自ら課題を設定し、それを解決に結びつけることができる」といった点の評価は、あまり芳しくない。

### 3. 出身の学部・学科にかかわらず求められる知識や能力の企業における必要性

問3 出身の学部学科にかかわらず、本学の出身者が御社で勤務するにあたり、次のような知識や能力を学生時代に身につけておくことは、どの程度必要とされていますか。

主として今後のカリキュラムの編成・運用にあたっての参考とするため、大学教育の対象となる（なりうる）各種の知識や能力について、企業において一般にどの程度必要とされているかを調査したものである。その集計結果は表3のとおりである。

表3 知識や能力の企業における必要性

	とても必要とされている	ある程度必要とされている	あまり必要とされていない	まったく必要とされていない	有効回答数
	(A)	(B)	(C)	(D)	
企業活動全般にかかわる社会科学系の科目に関する基礎的な広い知識	17.4%	71.7%	8.7%	2.2%	46
学部・学科で学ぶ専門科目に関する基礎的な知識	10.9%	63.0%	21.7%	4.3%	46
学部・学科で学ぶ専門科目に関する実践的な知識	13.0%	50.0%	34.8%	2.2%	46
学部・学科で学ぶ専門科目に関する体系的・理論的な深い知識	10.9%	45.7%	39.1%	4.3%	46
Excel や Word, PowerPoint などの汎用的なソフトを使って社内文書・資料を作成するための知識・能力	32.6%	58.7%	8.7%	0.0%	46
Excel や Word, PowerPoint などの汎用的なソフトを使って、プレゼンテーション資料、営業ツールなど対外的に使用する文書・資料を作成することができる知識・能力	28.3%	54.3%	17.4%	0.0%	46
Excel, Access などの汎用的なソフトを使って、データを集計、分析することができる知識・能力	15.2%	56.5%	28.3%	0.0%	46
社内文書の内容を理解し、具体的な行動につなげることができる力	54.3%	41.3%	4.3%	0.0%	46
新聞、雑誌などの記事の内容を理解し、業務に活かすことができる力	43.5%	47.8%	8.7%	0.0%	46
社内での対話を円滑に行い、具体的な行動や成果につなげることができる力	76.1%	23.9%	0.0%	0.0%	46
社内外でのプレゼンテーションを効果的に行い、他者の行動を促す力	23.9%	65.2%	10.9%	0.0%	46
外国語によって社内外のコミュニケーションを図るための基礎的な能力	2.2%	6.5%	65.2%	26.1%	46
ビジネスパーソンとしての基本的なマナー	78.3%	21.7%	0.0%	0.0%	46

今回調査の対象とした中では、「ビジネスパーソンとしての基本的なマナー」が最も必要とされる割合が高かった。「とても必要とされている」とした回答の割合が78.3%であり、「ある程度必要とされている」と合わせると、すべての企業の採用担当者が「必要とされている」と回答している。これに次ぐのが「社内での対話を円滑に行い、具体的な行動や成果につなげることができる力」であり、同じくすべての企業の採用担当者が

「必要とされている」と回答している。以下、「必要とされている」という回答が8割を超えているものは、その割合の高い順に、「社内文書の内容を理解し、具体的な行動につなげることができる力」、「新聞、雑誌などの記事の内容を理解し、業務に活かすことができる力」、「Excel や Word, PowerPoint などの汎用的なソフトを使って社内文書・資料を作成するための知識・能力」、「企業活動全般にかかわる社会科学系の科目に関する基礎的な広い知識」、「社内外でのプレゼンテーションを効果的に行い、他者の行動を促す力」である。一方、「外国語によって社内外のコミュニケーションを図るための基礎的な能力」については、「必要とされている」とはいえないとする割合が9割を超えている。学部・学科で学ぶ専門科目に関する知識についての評価は分かれている。そのうち「基礎的な知識」についてはおおよそ4分の3にあたる回答が「必要とされている」としているのに対し、「実践的な知識」、「体系的・理論的な深い知識」については、「必要とされていない」の回答割合がやや高くなっている。

#### 4. 出身の学部学科にかかわらず求められる知識や能力の、本学出身者の習得度に関する企業の評価

問4 採用や人材育成に関わっておられる中で、本学の出身者は全般的に、問3に掲げたような知識や能力を学生時代にどの程度身につけているとの印象をお持ちですか。

上記3にみた、出身の学部・学科にかかわらず求められる知識や能力を本学の出身者がどの程度身につけることができているかについて、企業の採用担当者ほどどのように評価しているのかを調査したものである。その集計結果は表4のとおりである。

表4 知識や能力についての本学出身者の習得度に関する企業の評価

	十分に身につけている	ある程度身につけている	あまり身につけてない	まったく身につけていない	有効回答数
	(A)	(B)	(C)	(D)	
企業活動全般にかかわる社会科学系の科目に関する基礎的な広い知識	11.6%	81.4%	9.3%	0.0%	43
学部・学科で学ぶ専門科目に関する基礎的な知識	7.0%	79.1%	14.0%	0.0%	43
学部・学科で学ぶ専門科目に関する実践的な知識	4.5%	77.3%	18.2%	0.0%	44
学部・学科で学ぶ専門科目に関する体系的・理論的な深い知識	4.5%	68.2%	27.3%	0.0%	44
Excel や Word, PowerPoint などの汎用的なソフトを使って社内文書・資料を作成するための知識・能力	13.6%	77.3%	9.1%	0.0%	44
Excel や Word, PowerPoint などの汎用的なソフトを使って、プレゼンテーション資料、営業ツールなど対外的に使用する文書・資料を作成することができる知識・能力	9.1%	86.4%	2.3%	2.3%	44
Excel, Access などの汎用的なソフトを使って、データを集計、分析することができる知識・能力	4.7%	62.8%	30.2%	2.3%	43
社内文書の内容を理解し、具体的な行動につなげることができる力	11.4%	75.0%	13.6%	0.0%	44
新聞、雑誌などの記事の内容を理解し、業務に活かすことができる力	9.1%	72.7%	15.9%	2.3%	44
社内での対話を円滑に行い、具体的な行動や成果につなげることができる力	29.5%	59.1%	11.4%	0.0%	44
社内外でのプレゼンテーションを効果的に行い、他者の行動を促す力	9.1%	72.7%	13.6%	4.5%	44
外国語によって社内外のコミュニケーションを図るための基礎的な能力	2.3%	29.5%	56.8%	11.4%	44
ビジネスパーソンとしての基本的なマナー	18.2%	75.0%	6.8%	0.0%	44

全般的に、「十分に身につけている」とされた割合が低い。最も高い「社内での対話を円滑に行い、具体的な行動や成果につなげることができる力」でも3分の1以下である。一部の項目についてはこの割合が一桁台のものもあり、先に見た、企業における必要性とも合わせて検討する必要はあるものの、今後の課題と考えられ

る。一方で「ある程度身につけている」を加えた割合は、多くの項目で8割を超えている。「Excel, Accessなどの汎用的なソフトを使って、データを集計、分析することができる知識・能力」はわずかに7割を下回っているが、全般的に見て、「外国語によって社内外のコミュニケーションを図るための基礎的な能力」を除けば、いずれの項目もおおよそ7割以上が「身につけている」と回答している。

以上